



公益財団法人 かめのり財団

奨学生 東北研修

訪問レポート

実施期間 : 平成 24 年 5 月 11 日 (金) ~5 月 12 日 (土)

訪問先 : 宮城県南三陸町  
七ヶ浜国際村  
仙台市若林地区荒浜  
名取市閑上地区



公益財団法人かめのり財団  
被災地見学・奨学生懇談会

| 開催概要(予定) |                                                  |
|----------|--------------------------------------------------|
| 日 に ち    | 2012年5月11日(金)～5月12日(土)                           |
| 場 所      | 【5月11日】南三陸見学→ホテル松島大観荘<br>【5月12日】七ヶ浜国際村→荒浜地区・閑上地区 |

| スケジュール(予定 / 奨学生用) |                                      |
|-------------------|--------------------------------------|
| 5月11日(金)          |                                      |
| 時 間               | 内 容                                  |
| 11:40             | 仙台駅 新幹線中央口に集合、その後バスで仙台空港に移動          |
| 12:45             | 仙台空港 1F 到着ロビーに集合                     |
| 13:00             | 仙台空港で合流、被災地見学(南三陸方面)バス出発             |
| 18:30             | ホテル到着                                |
| 19:00             | 夕食                                   |
| 20:20             | ミーティング・タレントショー                       |
| 21:10             | 宿泊の注意点、明日の予定についてなどの案内                |
| 21:15             | 部屋へ移動、入浴、                            |
| 22:30             | 就寝                                   |
| 5月12日(土)          |                                      |
| 7:00              | 起床、荷物まとめ、朝食                          |
| 8:30              | バスにて七ヶ浜国際村へ                          |
| 9:30              | 七ヶ浜国際村到着                             |
| 9:45              | セッション第一部 レクチャー 被災地の先生や留学生から          |
| 11:15             | セッション第二部 ディスカッション<br>感じたこと・これからできること |
| 12:10             | 昼食                                   |
| 13:00             | 被災地見学(荒浜地区・閑上地区)バス出発                 |
| 15:30             | 仙台空港着                                |
| 17:00             | 仙台駅着                                 |





### The Kamenori Foundation

Visit to the affected areas by the Great East Japan Earthquake  
& a session with Kamenori Scholarship students

| The outline the event |                                                                                                                                                              |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Date                  | Friday, May 11th and Saturday, May 12 <sup>th</sup> , 2012                                                                                                   |
| Venue                 | <p>【May 11th】 Minami Sanriku Area → Hotel Matsushima Daikan-so</p> <p>【May 12th】 Shichigahama International Village →</p> <p>Arahama &amp; Yuriage Areas</p> |

| Tentative Schedule                         |                                                                                            |
|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>Friday, May 11th, 2012</b>              |                                                                                            |
| Time                                       | Contents                                                                                   |
| 11:40                                      | (By train)Meet at Shinkansen-Central exit, Sendai Station<br>Move to Sendai Airport by bus |
| 12:45                                      | (By air) Meet at the arrival lobby on the 1 <sup>st</sup> floor, Sendai Airport            |
| 13:00                                      | Start a visit to the affected areas by bus (Minami Sanriku Area)                           |
| 18:30                                      | Arrive at the hotel                                                                        |
| 19:00                                      | Dinner                                                                                     |
| 20:20                                      | Meeting & Talent Show                                                                      |
| 21:10                                      | Briefing on accommodation and tomorrow's schedule                                          |
| 21:15                                      | Move to the rooms and bath time                                                            |
| 22:30                                      | Go to bed                                                                                  |
| <b>Saturday, May 12<sup>th</sup>, 2012</b> |                                                                                            |
| 7:00                                       | Wake-up / Pack up/ Breakfast                                                               |
| 8:30                                       | Move to Shichigahama International Village by bus                                          |
| 9:30                                       | Arrival at the Village                                                                     |
| 9:45                                       | Session 1 : Lecture                                                                        |
| 11:15                                      | Session 2 : Discussion    What we learn from the Earthquake<br>What we can do now          |
| 12:10                                      | Lunch                                                                                      |
| 13:00                                      | Start a visit to the affected areas by bus (Arahama and Yuriage Areas)                     |
| 15:30                                      | Arrival at Sendai Airport                                                                  |
| 17:00                                      | Arrival at Sendai Station                                                                  |



**Assignments:** "Report on Miyagi Trip" should be submitted by May 31<sup>st</sup> to AFS / YFU.

公益財団法人 かめのり財団

かめのり財団奨学生 2012年5月11日(金)～12日(土) 東北研修 参加者リスト

|      | 国名     |        | 姓                 | 名             | カタカナ        |            |      |
|------|--------|--------|-------------------|---------------|-------------|------------|------|
| 高校生  | 中国     | 1 Ms.  | Mu                | Leqi          |             | AFS        | 静岡県  |
| 高校生  | 香港     | 2 Mr.  | Wong              | Hei Shun      |             | AFS        | 長崎県  |
| 高校生  | インドネシア | 3 Ms.  | Nuswantari        | Astri         |             | AFS        | 佐賀県  |
| 高校生  | インド    | 4 Ms.  | Asnani            | Aishwarya     |             | AFS        | 愛知県  |
| 高校生  | 韓国     | 5 Mr.  | Choe              | Mu Seon       |             | AFS        | 北海道  |
| 高校生  | 韓国     | 6 Ms.  | Yang              | Min Ji        |             | AFS        | 愛知県  |
| 高校生  | マレーシア  | 7 Ms.  | Jean Anne         | Heng          |             | AFS        | 東京都  |
| 高校生  | ネパール   | 8 Mr.  | Devkota           | Angat Prashad |             | AFS        | 京都府  |
| 高校生  | ネパール   | 9 Ms.  | Subba             | Subina        |             | AFS        | 新潟県  |
| 高校生  | タイ     | 10 Ms. | KAEN-IN           | KAEWTA        |             | AFS        | 北海道  |
| 高校生  | 中国     | 11 Ms. | Chen              | Han Qing      | チエンハンキン     | YFU        | 佐賀県  |
| 高校生  | フィリピン  | 12 Ms. | Afuang            | Danielle Lois | アファンダニエルロイス | YFU        | 神奈川県 |
| 高校生  | インドネシア | 13 Ms. | 片岡                | 理沙            | かたおかりさ      | AFS        | 神奈川県 |
| 高校生  | 中国     | 14 Mr. | 砂川                | 晃広            | すながわあきひろ    | AFS        | 兵庫県  |
| 高校生  | 中国     | 15 Ms. | 山本                | 夢月            | やまもとむうん     | AFS        | 東京都  |
| 大学院生 | 中国     | 16     | 史 明洲              |               | シ メイシュウ     | 一橋大学大学院    | 東京都  |
| 大学院生 | ミャンマー  | 17     | Htet Htet Nu Htay |               | テッテツヌティー    | 東京外国語大学大学院 | 東京都  |
| 大学院生 | 中国     | 18     | 張 婷婷              |               | チョウ テイティ    | 東北大大学院     | 宮城県  |
| 大学院生 | 韓国     | 19     | 金 智愛              |               | キム ジエ       | 立命館大学大学院   | 京都府  |

## かめのり財団奨学生 東北研修

2012年（平成24）5月11日～5月12日の1泊2日で、かめのり財団の奨学生が東北研修に参加しました。この研修は、実際に宮城県の被災地域を訪ね、体験談を聞き、被災地域の状況を自分の眼で見、肌で感じ、自分たちに何ができるのかを考えるものでした。そして、少しでも被災された方々の心に寄り添うことができるようになってもらいたいとの気持ちを込めて実施しました。

2012年5月11日（金）　くもり

13:00に日本各地から集まったかめのり奨学生19人と引率者を乗せて、被災地見学のバスが最初の見学地である宮城県南三陸方面に向けて仙台空港を出発しました。



バスの中では、津波が襲ってくる様子が収められたビデオを見ながら宮城復興支援センターの船田究氏と震災当時南三陸町立歌津（うたつ）中学校校長であった阿部友昭氏の体験談をうかがいました。

参加しているアジアからの高校生12名、日本からアジアに派遣される高校生3名、そしてアジアからの大学院生4名は、ビデオの映像にまず衝撃を受け、更に実際に南三陸の地に立って津波の恐ろしさを体感したようでした。

海水に浸かったために枯れた杉の木立、瓦礫の山、流された線路、壊れた学校や病院、そして鉄骨だけ残った防災対策庁舎。ビデオが実際に撮られた志津川中学校の高台に立ち、下に広がる何もなくなってしまった町の跡を見て、みんな言葉もありませんでした



鉄骨だけ残った防災対策庁舎



志津川中学校の高台

また、海拔18メートルの歌津（うたつ）駅で、そこまで押し寄せて鉄道を破壊した津波の威力を感じました。

歌津駅の様子



見学を終えた後、宿泊施設へ移動しました。夕食後は、それぞれの国の民族衣装を着て、歌やダンスなどを披露しました。朝早くからの移動で疲れていたにもかかわらず、時間を少しオーバーするほど楽しみ、奨学生同志の親睦が深まる機会ともなりました。



## 2012年5月12日（土） はれ

2日目の午前中は講義を聴き、ディスカッションを行いました。まず、高校生の時、日本に留学経験を持つ、七ヶ浜国際村国際交流員のマーティ ミックエルリース (Marti McElreath) 氏から、震災当時の様子とその後の活動の話をうかがいました。

次に、震災当時歌津（うたつ）中学校校長であった阿部友昭氏から南三陸町の被災状況と歌津（うたつ）地区での震災時の状況とその後の取り組みについての説明がありました。今回の大震災は、津（しん）災であり、18メートルの津波が襲ったが、どこよりも高いところに移動するという先生方の采配により子どもたちの命が助かったこと、1000年に1度の未曾有の災害を後世に残すために記録を作り始めるほか、中学生も一緒になって防災に強い町づくりを行っているというお話しが印象に残りました。

そして、宮城復興支援センターの船田究氏からは避難所への支援を通じて、支援の仕方もそれで大学生が子供たちと遊ぶことも心のケアとしてとても大切であること、またそのほかにも3人の外国人留学生・社会人の方々からも震災当日の状況をうかがいました。



Marti さんからのお話を聞く



外国人留学生からのお話

このあと行われたディスカッションでは、「この2日間で 被災地を見て、経験者の話を聞いて感じたこと、これだけは自分の国に帰って、伝えたいと思ったこと、また自分に何が出来るだろうか」ということを話し合いました。

被災した地域の復興はまだまだこれからであると実感した奨学生たち。

この地を訪れて1人でも多くの日本人の人々に状況を見て心に刻んでほしいので、高校生の修学旅行は東北地方にするとよい、そうすれば、東北地方に多くの人が訪れることになり東北地方にもプラスになるだろうということ、またいろいろな地域の高校生もボランティア活動に対する意識が高まるかもしれないという意見が出ました。またこの夏から留学予定の日本人高校生たちは、今回の様子をすべて自分の留学先で伝えたいと話していました。

昼食後、仙台市若林区荒浜と名取市閑上(ゆりあげ)地区を見学し、それぞれの思いをもって、奨学生は帰路につきました。実際自分の目で見て現実を知り、いろいろな視点で震災の話を聞き、そして自分で何ができるか考える有意義な研修を行うことができました。

今回ご協力いただきました多くの方々に心より感謝申し上げます。



訪問当日は広く青い空、そして青い海が美しかった荒浜

★ご協力いただきありがとうございます★

宮城復興支援センター

七ヶ浜国際村

公益財団法人 AFS 日本協会

公益財団法人 YFU 日本国際交流財団

JTB 法人東京

株式会社青い鳥創業

氏名/Name : 牟乐淇 Mu Legi 国/Country : 中国

5月11日と12日、私たちは宮城へ行きました。宮城 - 2011年3月11日に大きな地震と津波起こったところ。

バスで乗って時、ビデオを見た。津波は本当に怖かったですけど、二人の放送者ずっと放送していました、この二人は本当にすごくて強かったです。  
角三陸に着き、荒涼たる現場にとてもびっくりしました。建物多く倒れ  
た、窓はかけられました。車が少しありますけど、人は見えなかった。小  
学校、中学校に見たり、とても心配でした。でも、会ったの宮城

人はとても強い笑顔を持って、松見たい。(宮城に見た松はとても  
強い立っている) I saw the trees that had been brought out of the ground,  
but their roots were still covered by soil, they were still alive. Just like the people  
in Miyagi. They  
マリアさんは「新しい町を立てのよう、七ヶ浜町はお金が一番  
欲しい」といました。私たちもお金とか食品とか家庭雑貨あげること  
だけできる。今、浜北西高校(私のホストスクール)は募金しています。

将来、私も志願者になりたい。どこでも不便のところある時、助け  
たい。 It will be hard to help people, but it will be really  
happy to help people in need. [Sorry for using a lot of wrong  
sentences (maybe). I'm just trying to write in Japanese.]

I'm not sure where to donate the money, and since I'm a high  
school student. There is only 2000 yen for "七ヶ浜町" to rebuild. I think  
the best way to give money to "七ヶ浜町" is through かめのり財團。so お頬  
いします。I hope every survivor can keep strong and healthy. And I will  
continue care for "宮城" 's news. Hope it will be a beautiful city again  
soon.

氏名/Name : Hei Shun Wang 国/Country : 香港

5月11日、12日 2日間、仙台に行きました。

2日間の旅行、本当に楽しかったです。

色々な国からの留学生と会いました。

異なる文化も習いました

でも、一番忘れてくれるのは他の国の文化ではなく、

被災地に関することです。

2011年3月11日に発生した地震と伴って、日本東北地方で"色々な

場所は大きな津波に破壊されました。この地震の規模は、

信じられないほど"大きいです。すべての建築物は破壊され、

木の形も変わられました。

もし自分の目の前に見ることだけければ、この津波の強さを感

じられません。その2日間の体験、誰にもショックを受けます。当然、

私にも大驚きました。

しかし、最も驚いたことは日本人の精神です。情況が悪境は

どんなに悪くても、自分の居場所を離れないように、修復して

継ぎます。それはとても大事なことです"と思います。

氏名/Name : Astri Nuswantari

国/Country : Indonesia

On May 2011, there was a big tsunami in Miyagi prefecture which destroyed  $\frac{1}{3}$  part of this prefecture. Most of the people went to the higher place to save their life. About 40 people were announcing that disaster, but only 6 people could survive.

Because of that disaster, many people lost their job, family, and house. So they lived in the evacuation place for months. The government and people around the world supplied some foods and clothes. A lot of volunteer also came and helped the tsunami's victims. Some of them helped to share the foods, and some taught and played with the kids because about 2 months there was no school.

After that, the government made some temporary house so that the victim could stay for a while until they got a cheap apartment. They could survive in this situation because they followed the government instructions, stayed calm, and helped each other.

Nowday, people make some praying spots for tsunami's victims. One of them is in front of announcement building which already destroyed by tsunami.

In the future, this area will be a park. To show their thankful, they also write

"全世界の皆さんありがとうございます" on the wall of a mountain near broken station.

From this trip, I learned how to survive when the disaster come so that it is not necessary to be panic. If it is not happen to us, we also have to help and do something useful depends on our ability. Not only watch and do nothing in front of TV.

氏名/Name : Aishwary Asnani (alko) 国/Country : India

When the disaster occurred, I was in my country India, but I made sure to catch every glimpse of the disaster. It was a shock to all Indians and we mourned for the loss of Japan and prayed for the lost souls.

Our journey started at 1 in clock in the afternoon. We visited the Tohoku region in Miyagi-ken. When we reached our first destination, we couldn't believe our eyes. The whole was wiped out, all that remained were the foundation of the houses. It was a horrifying experience. After that we visited the place from where the broadcasting was done. The building had nothing but twisted staircase, burned pipes, broken pillars. We prayed for the victims and then we were told that the whole region was sunk 1metre in the ground. After that we visited many such town and saw broken buildings, heaps of cars washed away by the sea.

I would like to sincerely thank the Kamenori Foundation for allowing me to see the areas affected by the disaster with my own eyes. During the whole trip, there was one thing that inspired me the most - it was the feeling of love and care in Japanese people. They have a lot determination and a strong will. I realised this when I saw the "おりが" flower work. They had put these flowers on a wall, with different colors, in memory of the lost souls. This was the thing that moved me the most. Just seeing it brought within me a hope for a good future.

No. 2  
Date . . .

Aishwary Ashani  
(IND)

I also learned the various preventive measures that could be taken if such a disaster occurred in our countries such as making building foundation, better evacuation strategies.

I would once again like to thank the Kamenori Foundation for hosting such a once in a life time event and letting me be a part of it  
ありがとうございます!!

第6期生（2012年度実施）被災地訪問レポート

KOR Mu Seon Choe

Visit the Miyagi.

In May 11st, 12nd, The Kamenori Scholarship students went Miyagi that damaged by Tsunami 1 year ago.

Actually, i never saw or suffer Tsunami or earthquake in my country. But after this, i can feel and image

how scared and horrible situation it is. Also i got a lot of informations about Tsunami and earthquake.

In First, we went Minami San-Riku. There was the first place that damaged by Tsunami. In addition, i saw the video that record when

Tsunami is coming. All of cars, houses, building was sink and literally destroyed. I can't repress my astonishment.

And that time(in video) 'Endo Miki' who is broadcast to citizen flee to safe area, while Tsunami is coming.

I can't imagine that somebody sacrifice byself and protect other peoples. Still i remember her name and spirit of sacrifice.

Tsunami swallow town, and it was shock. I can't explain how i feel.

Next was station. There was quite high hilly section, but there was also damaged a lot. Railroad was shattered, and step also.

That describe how many peoples sacrificed by Tsunami... And i realized that Sendai Airport also damaged, and i saw a line that

show the water bubbled 13m. The first day was horribly shocked...

Second, the next day, we went Sendai waterfront where 300 corpse finded. When we look a ocean, we just feel

'how beautiful ocean', but we must realize that we shoul silence and pray to Sendai citizen.

We can saw destroyed car, hospital, house wreckage, and there was NOTHING...

Like human can't beat the nature... And i noticed we should be tension about disaster, emergency, and how should we

handle it. After this visit, i search about Miyagi, tsunami, earthquake. Afterward, i learn and fix out what should we do

and our attention is a big help, not only Miyagi but also the world. We should realize that natural disaster can be face to us.

Lets face up to the reality, and concern the problem.

Thanks and Sorry for wait my report,

Also Thanks for give me a chance that i realize Miyagi and natural disaster.

For 11th and 12th we went to Sendai, the affected area.

It was really serious and I can't forget about the scenes that I saw in Sendai.

The cars were on rooftop, the garbage was piled everywhere, and trees were broken.

Through this trip, I felt lots of emotions.

Actually, Korea doesn't have frequent earthquakes like Japan.

But I realized how a disaster could change peoples' lives.

And I impressed by the announcer who did the broadcast for the people even the announcement building was in danger.

She was really brave and sacrificed for the people.

I think it is not only Japan's problem but also world's problem.

Tsunami and earthquake could be happened everywhere although the places are included in safe area.

For these disasters, we have to concern about it like our own countries' problem and help those people to restore their lives.

I just want to say thank you for Kamehori, gave me chances to experience these and think about the world's problem.

氏名/Name : HENG JEAN ANNE 国/Country : MALAYSIA a

This trip has been an eye-opener for me personally. When the tsunami struck on March 11, 2011, Malaysia, along with the rest of the world, received the news almost immediately. When I first read about it in the newspaper, I was shocked but not very affected emotionally. By being brought to all the affected areas during the Miyagi trip, the tragedy and immense loss suffered suddenly became very real to me and I was deeply moved. After hearing all the lectures by people who had experienced the incident, I am even more in awe of the Japanese people and their reaction to disaster. The personal accounts from the lecturers from America, Nepal, Canada and Peru were all very honest and insightful. This trip has really taught me a lot and I will take my newfound knowledge back to Malaysia. I intend to start an organization that will provide Malaysians with earthquake safety precautions, and to raise awareness about natural disasters occurring all over the world. It is my hope that someday Malaysia will be able to respond the right way to any disasters that might occur in the future. Also, this trip has helped me make new friends from all over Asia and I am extremely glad for that, because it has widened my scope of thinking and exposed me to many different cultures. I am very grateful to Kamenori Foundation for granting me this once-in-a-lifetime opportunity and I will always remember everything about this trip. I am proud to be a Kamenori Scholarship recipient, and I am proud to be a part of Japan.

氏名/Name : Angal pr. Devkota 国/Country : Nepal

In the Asia country's Japan is the country which gave a large number of earthquakes enough big or small. In last year 2011/3/11 Japan gave a huge earthquake (The great East Japan earthquake). In that time most of all place of Japan gave earthquakes, but in Miyagi they gave tsunami also and that tsunami is very big. Most of the people who lives near to the seaside, they became victim of tsunami more then ten thousand peoples dies and many peoples missing still, it destroy all the things. It and there is nothings house, few houses and some people. When I visit that place I fell very distress. That time when I see that place I am very sad and that day is very sad for me in my life, but I learn many things from there. How to help the victim people of natural disasters and I want to help the victim and we should have to help the Miyagi tsunami victim to build there houses, we have to provide infra food, cloths and other things that they need, education to make there life restores again.

I well like to give thanks to Kamenori foundation who gives chance to know about 3/11 tsunami in Miyagi of Japan when I meet Nepalese voluntary who help the people in tsunami from that day it gave energy to do somethings for the victim I am proud of Nepalese voluntary who help and I want to do same thing in my life for victim. Thank you Kamenori Foundation.

氏名/Name : Subina OSubba 国/Country : Nepal

It was my first time to visit Miyagi, sendai. For the first time I felt I bore a responsibility towards the nature. I'm glad and very thankful to the Kamenori foundation for giving me such golden opportunity to learn about the causes of nature. Being at Miyagi,

Sendai for 2 days is an unforgettable memory for me.

I was very happy to see my friends and I'm glad that I could be friends with others too through the 2 days trip. About the natural disasters which

occurred last year at Miyagi, Sendai; it really

Made me feel very sad and listening to the people's experience at the time of natural disaster; I too

had a terrible experience too. I know it's a very sad and miserable experience for all the people

who had suffered the disaster last year and I

really feel sorry and I pray that the departed soul of the ~~dead~~ people rest in peace in heaven.

I pray to god i.e., never again such disaster

occur in any parts of the world until we are

alive. Let's believe; God is always with us and

Helping people of the nature!

thank you



氏名/Name : Miss Kaewta KAEN-IN 国/Country : THAILAND a

On March 2011 - one year ago when I wasn't AFS student and didn't know about Kamenori, I saw the affectedness by tsunami and earthquake in east of Japan from television in Thailand. I know what the big disaster, and this year, 11-12 May 2012 I had trip from Kamenori Foundation, I really and truly visited to the affected areas by the Great East Japan Earthquake. I never think I can got this trip. It's not ordinary trip. It's special trip; different from others. Because this is MIYAGI trip in Sendai.

This trip gave me many things. I can understand what happened in this areas and how about a violent disaster. After this situation, it taught us no one can stop natural calamity to happen. It's terrible. Tsunami destroy everything, dwelling place, people's life, mind and spirit. The things that we can do is only prevention to save the life before it happened and repair, improve after it happens.

There're tsunami in many country; Indonesia, Philippines etc. December, 2005 in Thailand, the first time that tsunami happened. No one remove, no one know about tsunami, no caution or warning because it never take places. Many people died, everything was destroyed. But there're no only bad things.

After disaster happened, we learn how to stand up and fighting again we learn to help each others, love, friendship and help, it come.

It make us go stronger and know how to do in next time if it happen.

Besides we learn about affected areas, this trip we met friends from the others places, taking about experience 2 months in Japan. Saw the different things from many country in Talent show night. took the picture together and exchange email address. It's a nice trip. ^\_~

氏名/Name : 陈 哈卿 Chen HanQing 国/Country : China

今回、宮城県に来て、もの凄く震撼した。私は上海で住んでいたから、一度でも地震の経験がないので、実際に地震がくる時、人々の恐怖感が想像できない。でも、ビデオで津波の映像を見て、本の数十数分間で、町中の建物が全滅しちゃって、本当にびっくりした。この町は私にとって、別に特別な感情が持っていないんですけど、それでも、私はそこからショックを受けた、じゃあ、その町で数十年間住んでいた住民たちの気持ちを言わなくても分かるでしょう！自分の町を津波で流された、というシーンは、目の前で起こるなんぞ、どれぐらいいの无力感を感じるだろうか。

でも、1年2ヶ月後の今、被災地の現場はもうずいぶん片付けた、前よりもずいぶんきれいになった、それを見て、私は再び被災地の人々の心の強さに感心してきた。どんな絶望の前でも、絶対に継めるいの精神も、私たちが学ぶべきものである。

歌津中学校の校長先生、阿部さんも言った、「仙台の意味は「Send Air」、愛を送るという意味です。今の私はまだ“できることがあまりないけど、だから、せめてこの愛た”けど、被災地の人々に送りたいと思います！

~~我~~ 積極張ろう、東北！！

氏名/Name : アフアン・ダニエル (AFUAN, Danielle Lois) 国/Country : フィリピン (Philippines)

Even before I came to Japan, I was aware of the tsunami incident in Japan. It was very alarming for us Filipinos because we have the same location as Japan except that we are located near the equator. Everyone got shocked at last year's event but no one really knew the reality of the damage the tsunami caused Sendai. I knew it made a tremendous damage but I can't imagine the real picture of it. Media broadcasted a thin example of everything and I wasn't able to watch the news that often when I was still in my dormitory. So when I came to Japan, Sendai in particular I was greatly disturbed. When we came to the damaged areas I saw nothing. Nothing meaningful there were no buildings, no trees, no civilization and almost no life. I felt lonely just stepping out of the bus and feeling the cool breeze, the sea and the whole area gave mixed feelings came about when I thought of last year's situation. I was and still speechless. You can see the evidences of the tsunami with the lined up recked cars in front of the remains of the building but the whole town was clean. It amazed me how Japanese cleaned up so quickly. Even the recked cars and motorcycles were properly lined up. This is one of the proof that Japanese people contains innate cleanliness.

AFUAN, Danielle Lois  
(Philippines).

When we reached the hotel, the same day we came, our room got an amazing view of the sea. It was mesmerizing at night time but much more beautiful when the sun shined on it. During the night we, me and my roommates, went to the public bath and there were a lot of nashi stars that I never see when I'm in Yokohama. The next day, we travelled beside the sea and had a magnificent view of the ocean. I can almost hear the beach calling out my name for a swim. Sendai is truly a wonderful place. It is now, after the tsunami but what more before? I am in awe of its natural beauty. I know despite the incident God has a plan for this place, He has a reason for everything and I know that soon He will raise this land and will make it more beautiful than ever. I shall continue to pray for this place and the whole of Japan. Its the least I can do to show gratitude and appreciation I have towards this country. I've learned so much on a two day trip. I know after 10 months I will be transformed, hopefully into a better person with the experiences I have and will have in the land of the rising sun.

The trip was definitely a blast. Stories from the victims and the rescuers made everything logical. The video clips were true to life and was and still very unimaginable. Despite the tragic part of the trip, meeting the other exchange students was really fun. Having to converse with them in Japanese language and exchanging stories about our experiences was really fun. The food that we were able to partake was great. The Shinkansen ride was also unforgettable. It was my first ride so I consider it a great memory. I do wish another trip will soon come and I know that I will surely learn from it like this one trip, whatever it might be.

氏名/Name : 片岡 理沙 国/Country : インドネシア a

5月11日、私は初めて被災地を訪問しました。仙台空港に着き、まず目にしたのが柱でした。柱には仙台空港まで流れてきた津波の高さが青い線で印されていて、それは私が余裕で被災してしまうほどとても高く、信じられませんでした。また、「テレビでしか見たことのない被災した様子を、私は今から実際に見なんだ。」と被災地に来た実感がわきました。テレビでよく聞く南三陸、山の上にあります駄津中学校から見るこの町に、津波の前にあった家や建物が様子が想像できませんでした。

2日の5月12日。宮城に住んでいる社会人、学生の外国人の方々の話を外国人の方の視点で聞くことが出来、韓国が製作した被災の様子の動画ではとても心が苦しくなり涙がとまりませんでした。今回、かめのり財団様のおかげでこのような貴重な体験が出来ました。この体験を9月からのハイボリューム留学で、私は日本人として沢山の人に行きたいかければならないと思います。  
ありがとうございました。

氏名/Name : 砂川 晃広 国/Country : 日本

まず、今回の被災地訪問という大きな経験をさせ  
ていただきたいことに深く感謝申し上げたいと思います。  
被災地を訪問してその実情を知り、草の根で活  
動しておられた方が多くいらしゃることを新たに  
知り、NPOやNGO・政府の政策といった話より  
もさすは「人」ありきの方だと実感しました。

こうした草の根レベルの「人」の活動があってはじ  
めて政策や募金が活きてるんだろと感じます。しか  
し、同時に何でも全員で決めるところと現行の日本の  
政治制度では緊急時に弱いという問題も浮  
彫りになりました。

また、中国人・韓国人・そしてその他の国の高校生  
と交流する中で日本さらには自分がこれまでに接  
れていたかを実感しました。ディスカッションで発言す  
るのは中国人の大学院の方ばかりだし、英語  
力では比べるべくありませんでした。これからは留  
学・そして大学での経験をより良いものにするため  
に語学力を孟たえ・世界の事情を学ばなければ  
ならないと思いました。

氏名/Name : 山本 夢月 国/Country : 日本

人の記憶とは恐ろしいもので、少し時間が経てば“どんな大切なこと”も簡単に風化していきます。1年前の震災も、完璧に忘れ去られることはあります。しかし、その悲惨さを忘れてしまう人が増えてきました。そのような時期に私は被災地に行かせていただきました。1年経ったというのに、ぐしゃぐしゃになった車や原形のわからぬがれきが海周辺の地域に散らばっていました。DVDを見た時、被災された方のお話を聞いた時、私はあまりにも恐ろしい映像、言葉に触れて恐怖感を抱きました。また、様々な方とディスカッションをして、自分の考えの浅さ、恐がることしかできない自分の弱さに気づかされました。

今回の被災地の見学、阿部さんちのお話をうり、今自分に何ができるか考えさせられました。まず、身近なことだと募金活動に積極的に貢献する、被災地へ行ったら物を沢山買う、周りの人々に今回の派遣での出来事・学んだ事を伝えて後世に残していく。また、留学先の中国でも今日のことを伝えられるように豆娘に刻みこんでおく、必要であれば言語にて免強しておこうと思いました。

また、もし自分の住む東京で震災があった時、自分はどう動くべきか積極的に大人の手伝いをする、子供たちと一緒に、など世界へ派遣される日本の代表の高校生としての行動力を学びました。

今回私は2日間という矢張い間で沢山のことを学ばせて頂きました。このような機会を与えてくれたかったかったため、財団のみな様本当にありがとうございました。

(2012年5月)

## ～東日本大震災と私たち～

一橋大学法学研究科 法学・国際関係専攻

史 明洲

5月11日、12日の二日間、財団関係者・大学院奨学生・高校派遣生などの一行は、東日本大震災の中、津波の被害が最もひどかったと言える宮城県を中心に、見学した。

正直に言うと、出発前に心の準備ができたし、そして震災発生から1年以上も経ったので、被災地を目の前にすることは、自分に対してこれほど衝撃をあげるのを考えなかつた。

今回の見学地は、主にアリス地形が特徴である宮城県東北部にある南三陸町と仙台湾に面する宮城県中部の海岸地域の二箇所であった。そのほか、みなさんが気づいたかどうかが分からないが、南三陸町に向かう高速道路沿いに石巻赤十字病院があった。この病院は、私の愛読書「東日本大震災 石巻災害医療の全記録」の現場であり、石巻地域の災害医療を支える戦役の指揮者・石井正医師の戦場でもあった。

### 1、悲惨な被災状況と被災地の方々の笑顔・将来に向かう精神

南三陸町に向かうバスの中に、南三陸町の津波襲来をまるごとに撮影したビデオを二部拝見した。被災者がまたま家庭用カメラで撮った映像であったが、はっきりとした防災無線の声、撮影者の悲鳴、市街地を一瞬に海に変える洪流が人間の心に対する衝撃は、いかなる映画よりも深かつた。そして、バスを降りて、南三陸町総合防災庁舎の前に立って、感無量になった。

それに、私の心をもっと動くのは、被災した方々の笑顔と将来に向かう精神であった。実際に避難所の指揮を行われた阿部先生、小学校の校庭で遊んで手を振ってくれた子供たち、南三陸町の海岸部で仮設建築を建って造船・水産を携わった人々、七ヶ浜町の職員・住民、みんなは笑顔で私たちを迎えた。仮にその方々を東京で出会ったとしたら、被災された方とは思わないほど陽気な笑顔があつた。

悲惨な被災状況、そして将来に向かう希望を持っている笑顔、両者の対比はあまりにも鮮明であり、私の心底で起こった波瀾がなかなか収まらなかつた。

みなさん、頑張ってください。勇気をいただいた私も、皆さんと共に頑張ります。

### 2、日本の素晴らしい基礎部分・仕事に対する忠誠心と混迷した指導部

今回の震災・原発事故の対応で明らかになったもう一つの対照は、日本の素晴らしい基礎部分(市町村レベルの自治体、市民組織、病院、ボランティア団体など)、仕事に対する忠誠心(例えば、南三陸町防災総合庁舎で最後までアナウンスを続けた二人のアナウンサー)と混迷した指導部(政府与党、野党、霞が関、東電本社など)であつた。

石井医師がその著書で語った整然な病院の秩序及び阿部先生に教えてもらった避難所の生活を見たら、これ以上素晴らしい基礎組織はないであろうと思い、声が震えずに生命の最後の一秒まで天使の声をアナウンスした二人以上に自分の仕事に忠誠する人間は存在しないと思う。

しかし、緊急な事態において、分析力と決断力が求められた指導部は何をしたのか。ここで詳述する必要はないであろう。

バブル崩壊後の日本は、失われた十年に続き、また十年あまりが経った。残念ながら、いま現在においても、好転する兆しが見えない。では、素晴らしい基礎部と混迷した上層部を今回の災害で対照に見たことを、ちょっとだけでも整理すれば、いつも高い素質と職への忠誠心を持つ国民を抱えた国がなぜ衰退しつづける原因はわかるであろう。私はずっと日本を「努力の方向性と妥当なルートが決まれば、絶対にそれを実現できる国」だと考えている。では、この素晴らしい国民を裏切らないように、上層部の人にお願いしたい。

### 3、瓦礫の処理と災害時の自治体行政

私がその日にずっとボランティアの方に問い合わせたのは、被災者として、瓦礫処理の進度について満足したのかということであった。そして、もらった答えは「ノー」であった。

いま被災した市町村の中、瓦礫の処理について、格差が生じた。仙台市のように、財政的な基盤が固く、処理施設がそもそも多いし、津波に襲われた施設が少なく、行政システムに障害が起らなかった自治体は、予定を大幅に前倒して、瓦礫の処理をしている。しかし、南三陸町のように、税収のメドが断絶し、処理施設がほぼ全滅して、町職員も多数なくなった自治体は、依然として瓦礫の山を抱えて、そして今後の長い時期にわたりそれを抱え続けるであろう。

当日には、ボランティアの方から、「いまの行政体制では、瓦礫の処理は市町村に任されたので、これもしかたがない」という無力さを感じさせる答えをいただいた。それで、私が出したい質問は、「今回のように、制度設定時の想定状況から明らかに乖離した事情にもかかわらず、市町村にすべてを任せるのは、いったい正しいのか」である。そして、「法律がそう決まったので、しょうがないだろう」との言い方に対しても、法学者としての観点から、「では、国会で时限付きの臨時方案を通過させ、例えば瓦礫処理の事務を県レベルに引き上げたら、宮城県内で仙台市と南三陸町との格差をなくし、迅速に処理できるはず」と主張したい。

つまり、通常時の対応は通常時のルールに基づくべきであるが、災害などの緊急時は必ずしもそれを執着する必要がなく、具体的な事態をよく分析したうえ、それぞれ適正な判断を出すべきだと考えている。

### 4、防災教育のあり方

私たちがビデオで確認できるのは、防災無線が流された時から津波が寄せた瞬間まで、30分近い時間にわたり、悲惨の呼びかけが出し続けられた。私が現地で目測してわかるように、これぐらいの時間があれば、体の不自由な方は別として、一般の方は正しい防災行動を出した場合、少なくとも海岸に一番近い高台に避難する可能性がとても高いことであった。

ところが、結局、多数の方が逃げ遅れ、または間違った避難方法によりなくなってしまった。それに、津波災害のとき、防災拠点ではないはずの「総合防災庁舎」でなくなった方もかなりの数があった。

憶測にすぎないが、まったく津波に対して教育を受けてない人は慌てて高台へ避難すること選びがちで(もちろん、財産を考慮し、逃げ遅れの可能性も否定できないが、今回において、防災無線が津波の高さを絶えず強調した)、私(中国で洪水にあった経験がある)や阿部先生(チリ地震津波を経験した)のような人(実践で洪水・津波に対する「いわば防災訓練」を受けた人)は洪水類が襲来する場合、川(今回は山間の谷)の両側が水位がもっとも高いとわかり、川から一番離れる高台へ避難することを選ぶ。

実際の状況がわからないので、結論を出すことを避けたいが、「防災教育にはどこか改善できる点があるか」という仮説をあえて提示し、少なくとも関係者から検討をしていただきたいと思う。

## かめのり財団 大学院奨学生 月次報告

テッテッヌティー

東京外国语大学博士後期課程

5月は晴れて温かい日々が続いています。私にとって5月はたくさんのことを考えさせる月でありました。11日と12日には『かめのり財団』の研修で東日本大震災の被災地へ見学に行きました。今回の月次報告を通して私が感じたことを文章にしたいと思います。感じたことを二つに大きく分けると自然の力と人間の力に分けられます。メディアでは被災地の瓦礫撤去が終了し、復興に向かっているように報道されていました。私は東日本大震災当時も東京について、その後も東京にいました。地震が怖かったものの東京では建物の崩壊などがなかったため1ヶ月もたてば日常の生活に戻っていました。テレビでは東北地方に津波が到達する映像などが流れるものの東京からは被災地のことを身近に感じていませんでした。

11日の昼ごろに被災地である南三陸町へバスが到着する時に小雨が降っていました。被災地は一年以上たったにもかかわらず当時の被害規模が伺える状態でありました。南三陸の中学校から見える景色は津波の恐ろしさをもの語っていました。私は自然の力の恐ろしさを目の当たりにしました。メディアの報道とは異なり、被災地ではインフラ整備がまだ整っていないし、壊れた家々の土台の間に車やボートが載せられているままでした。これだけ大きな震災だったが、一年でかなり片付いていることは伺えます。だが、被災地の方々の商業、日常生活は非常に苦しい状況であることが分かりました。復興に関して行政と自治体、住民の間で議論されている段階であるらしいです。翌日の12日は仙台市の荒浜地区へ見学に行って仙台市においても被害が多かったことが見れました。だが、南三陸においても荒浜地区においても被災者はお互いに支えながら復興に向けて歩みだしている印象を強く受けました。

お互いに助け合い、励まし合い、復興へ向かって努力していることが印象となりました。または仙台に住んでいる外国人も復興に尽くしている姿をみて国境を越えた、人類の底力を感じました。印象強く残っているのは、歌津中学校の校長阿部先生です。地震当時のことや地震後の南三陸町の様子を説明して下さっている際、私は彼の故郷に対する強い思い、または学生に対するやさしさと愛情が彼の行動、言葉を通して感じられました。歌津中学校の生徒らは震災を通して防災意識が高まり、たくましくなっているようです。

私は被災地見学をした際、被災地のあまりの無残な姿に動搖し、日本社会は被災地のことをさらに考えるべきだ、日本全体が被災地のことを考えるべきだと思っていました。だが、人間は皆それぞれの日常生活において様々なことで忙しいため身近でなければないほど徐々に物事を忘れてしまうのです。だが、心のどこかで必ず覚えていることはあるだろう。それは自然の力を妨害することができないのだが人間の力を合わせて立ち直ることが重要であるということだと私は思います。

## 被災地訪問レポート (2012年5月)

東北大学経済研究科 経済経営学専攻

張 婷婷

5月11日から12日までの被災地訪問の感想について報告させていただきます。

南三陸町の被災地見学と被災した語り部の方とのディスカッションは、まるで私が3・11の南三陸町に連れて行かれたような感じさえしました。津波のせいではぼろぼろになった防災対策庁舎の前で立っていた時、外側の階段で、天井の上で避難していた方々の姿が見えるように、防災無線で町民に避難を呼び掛け続け、津波の犠牲になった町職員遠藤未希さんの声が聞こえるように感じました。もともと綺麗だった町はあっという間にこの世から姿を消しました。南三陸町のような津波による被害が酷かった地域は瓦礫の処置、仮住宅の問題、被災地住民のこれからのか就職・生活諸問題に直面しています。また福島の原発問題は今でも世界中の注目を浴びています。

震災および震災による津災が直面していた時の非力を感じると同時に、これからできること、特に自分、外国人留学生としての自分ができること、やるべきことについて深く考えさせられました。

被災された地域に、東日本の復興に、自分の力が小さくても、間接的でも、細かくても、何かやれることはきっとあります。まず日常生活において、何かをやるべきであると思います。まず考えられるのは、被災地で産出された物を買うことです。これは経済的に負担が余りかからずに、被災地にお金の支援ができますし、被災地の産業復興にも役立ちます。そして常にボランティア活動に参加することです。体力的な簡単な作業でも、役に立てればやりたいです。

そして、3・11に仙台において大震災や津波の時にどう行動すべきかを身を以て体験しました。また被災地への訪問やボランティア活動などを通じて、日本人の復興に向けての団結力と頑張る姿に感心しました。これらを学校の後輩や、中国の家族・友人・親戚に伝えたいと考えています。

## 月次報告レポート「東日本大震災の被災地宮城県を訪ねて」

立命館大学社会研究科

応用社会学1回生

金智愛

まずは最初に、人類の歴史上に残る大きな自然災害で犠牲となった方々のご冥福を祈ります。

東北地域に行くのは私の人生で初めてでした。これまで東日本大震災のことについてはテレビやインターネットで接触するのが全てでありました。もし私がこの度の宮城に行っていたなら、メディアからの情報だけで被災地を体全体で感じる経験はなかったと思います。震災の復旧のスピードはまだ遅いと感じており、1年が経った現在は徐々に人々から忘れられつつあるように思います。

自然災害の威力がいかに大きいか、それに比べ人間という存在はどれだけ小さいのか。そして、そこから生き残ろうとみんなが必死に頑張って努力する姿、ともに生きろうとする姿に深く心が動かされ、日本という国を改めて経験したり感じたりするきっかけになりました。言葉で全てをうまく表現ができませんが、今、私が研究しているメディアの存在感をより強く感じました。東北の時間は止まっているかもしれません。日常生活で当然と信じていたものは一瞬でなくなりました。一般の人々の関心もメディアの関心も遠くなりつつあり、復旧においては様々な法律の制約があり、まだいまだに当地の住民生活レベルでの助けを求めるところでした。

韓国には日本に対してまだ反日感情が残っています。一方、日本の極端に保守的な行動などは隣国である韓国の人々が見るにも不安な要素として受け止められています。しかし、今回の災害は国境を越えました。本当にひどい津波被害が小さな漁業市村を襲い、言い方が厳しいかもしれませんが、被害が大きい地域は「滅びた」という印象を持ったとしても不思議ではない状況でした。東日本には韓国の人々も復旧を手伝ったり物資を送ったりしています。東日本の人々はみんながともに生きようと頑張っています。1年を経て復旧のスピードも加速してはいますが、当地を訪問した私はそこで何ができるか考えても、正直何も思い浮かびませんでした。

今の私は身近な例としてこの東北の状況を伝えたいという気持ちがいっぱいです。宮城から帰ってきてから、震災後1年の復旧状況を伝えたかったので個人のブログに載せました。そして、改め感じたのは震災報道のことでした。『「知る権利」と「伝える権利」のためのテレビ』という本を読みました。その本では災害における報道や原発事故に関するものが紹介されていました。その本を読むことと同時に、最後まで町の人々に津波が来るから逃げることをアナウンスし、最後に命を亡くしていた人々のことに思いをはせました。

災害の時に人々はいかに情報を必要とするのか、そして、時には伝える側は命の危険と隣り合わせであることを肌で実感できました。マスメディアが伝えている情報の中で、実

際被災者になった人々に対してどれだけ有効な情報を送ることができるのか。そのことを考えていました時、私の住んでいる京都で地元のコミュニティラジオが役に立つ事例があることに気づきました。京都三条ラジオカフェから発信する被災地の情報がそれです。そのほかにも「宮古災害 FM」、「FM いわき」などが被災地の地元コミュニティメディアの活躍の大切さもわかつてきました。

この度、宮城県の被災地と訪問して災害時のメディアの在り方や役割などを考察し、人々に大きな影響を与えるメディアの議定を知り、緊急時にメディアはどのような対応をすればよいか、自分なりに考えてみたいと思いました。そして、メディアにおいて自由な市民が参加するにはどうすればよいか。東日本大震災後の時でメディアからの情報が人々のつながり、「絆」をどのように築いてゆけるかを考えてみたいと思いました。このような経験を与えていただいたかめのり財團に感謝いたします。

月次報告レポート「東日本大震災の被災地宮城県を訪ねて」

立命館大学社会研究科 応用社会学1回生 金智愛



津波で大きな被害を受けた仙台空港では復興の歩みの写真展



志津川中学校 高台から



歌津駅



名取市閑上地区